

平成26年度 第2回芦屋市市民参画協働推進会議 会議録

日 時	平成26年11月21日(金) 午後5時～午後7時
場 所	北館2階第2会議室
参 加 者	会 長 今川 晃 副会長 井上 芳恵 委 員 焦 従勉 瀬尾 多嘉子 中野 久美子 堀 晃二 菅沼 久美子 池内 清
事 務 局	事務局 米原 登己子 企画部部長 福島 貴美 市民参画課課長 中寫 健太 市民参画課課長補佐 宮本 茂樹 市民参画課課員
会議の公表	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 部分公開
傍 聴 者	0 人

1 会議次第

- (1) 開会
- (2) 第2次芦屋市市民参画・協働推進計画スケジュールについて(別紙1)
- (3) 芦屋市市民参画協働推進計画についての総括(別紙2)
- (4) 第2次芦屋市市民参画・協働推進計画策定過程について(別紙3)
- (5) 第2次芦屋市市民参画・協働推進計画(素案)について(別紙4)
- (6) 閉会

2 配布資料

- (1) 第2回 芦屋市市民参画協働推進会議レジュメ
- (2) 平成26年度第2次芦屋市市民参画・協働推進計画スケジュール(別紙1)
- (3) 芦屋市市民参画協働推進計画(H19年度～H26年度)についての総括(別紙2)
- (4) 第2次芦屋市市民参画・協働推進計画策定過程(別紙3)
- (5) 第2次芦屋市市民参画・協働推進計画(素案)(別紙4)
- (6) 参画と協働についての意識・行動調査 調査結果の概要
- (7) 他市計画事例のまとめ(別紙5)
- (8) 第2次芦屋市市民参画協働推進計画骨子案についてのワークショップ(別紙7)

### 3 審議経過

#### <開会>

**今川会長** ただいまから、第2回芦屋市市民参画協働推進会議を始めます。本日はご多忙の中お集まりいただきありがとうございます。では、事務局からご報告をお願いします。

#### 出席の委員の紹介

事務局より会議運営上の取決め事項を次のとおり説明

- ・ 8名の委員のうち7名の委員が出席のため、本会は成立する。焦委員は、遅れて参加する。
- ・ 会議録作成のため、録音を実施することについて了解いただきたい。
- ・ 「芦屋市附属機関等の設置に関する指針」により、委員名簿、会議録及び会議中の発言者名について公開となる。
- ・ 会議の内容は、発言者が特定できるように会議録を作成し、ホームページへ掲載する。
- ・ 事前に配布した資料の変更箇所の説明

**中嶋課長補佐** (1)第2次芦屋市市民参画・協働推進計画スケジュール(別紙1)について説明  
(2)芦屋市市民参画協働推進計画(H19年度～H26年度)についての総括(別紙2)について説明  
(3)他市計画事例のまとめ(別紙5)についての説明  
(4)第2次芦屋市市民参画・協働推進計画策定過程(別紙3)についての説明

**福島課長** 第2次芦屋市市民参画・協働推進計画(素案)(別紙4)についての説明  
別紙7のワークショップでは、117件の熱い意見を頂きました。

**今川会長** 井上副会長が、用事で早めに退席しますので、意見をまとめてお願いします。

**井上副会長** ワークショップを開催されたということで、別紙7で合計で43名参加されたということですが、具体的にどういったかたに呼びかけをされて、どのようなかたが、参加されていたのか、どのような内容で進められたのか概要をお願いします。

**福島課長** 芦屋市自治会連合会を構成している81の自治会等にご案内し、あしや市民活動センター登録団体の方にご案内させていただき、自発的に参加していただきました。3回の内、どれに出ても結構ですとご案内いたしました。ワークショップ形式ですが、顔が見えるような態勢で自由にご意見を出してもらいました。いろんな方向から意見を出されて、特に自治会活動やNPO活動の意見が多かったので、第2次推進計画に対する意見は、107～111(別紙7の8ページ)に限られている状況です。推進計画に関する意見よりも普段の活動に立脚した意見が多かったです。

今川会長 意見を後からグループ化されたのですね。

福島課長 そうです。

井上副会長 他市の計画から参考になるものを別紙3で紹介されていますが、具体的に地域のコーディネーターの育成と活用，協働推進員のあたりが，推進計画に反映できそうですが，何か新しい制度とか仕組みを考えておられるのでしょうか。

福島課長 他市計画の4の(1)の協働推進員の配置は，計画(素案)の中に入れております。素案の11ページの基本目標4の(1)に各課における(仮称)協働推進リーダーの設置を入れました。

井上副会長 地域のコーディネーターの育成と活用については，何か具体的な取組はしていますか。

福島課長 地域のボランティアコーディネーターを養成しますというところで，(素案)の6ページ(4)「人そだち」を支えるのところに，「講座やセミナー(地域のボランティアコーディネーター養成講座等)の機会をとらえた地域人材の発掘」と「人・団体・行政の間をつなぐ地域のボランティアコーディネーター養成」と入れました。

井上副会長 市民提案制度や行政提案制度を，他の自治体では実施しているところもあると思うんですが，検討はされたのでしょうか。

福島課長 芦屋市市民参画及び協働推進に関する条例の第7条の市民参画の手続き及び9条のところに，市民提案ということで，大きな政策提案を求めています，今のところ市民提案が出ていない状況です。

井上副会長 条例の中に，テーマを絞らずにいつでも提案できる制度があるというだけでは，制度を知らない方がいたり，漠然としていて何について提案したらいいのかわからないかたもいると思います。他市のように，期間を区切って，市民の方が比較した提案が必要だと思う部分について提案書を出して，プレゼンをして，市民企画事業などができればいいと思います。条例の中で掲げているのは大事だと思いますが，実際に動かしていくためのプロジェクトや事業などが具体的にあった方が良いでしょう。

福島課長 市の方から提案を求める芦屋市提案型市民参画協働事業実施要綱がありまして，今までに提案を頂いたのは，成人式とマンション管理セミナーの2つです。成人式の方は，二十歳の方が企画して運営していく形で充実している成人式になっておりま

す。もう一つのマンション管理セミナーは公募をしまして、いくつもの団体の応募がありました。普段マンション管理を行っているNPO法人からたくさんご応募頂いた中で、プレゼンにより選ばせてもらいました。

**井上副会長** こういった形で何か市民の方からアイデアを利用したい場合は、積極的に呼びかけているということでしょうか。

**福島課長** 要綱を活用して公募させて頂いています。

**井上副会長** 目標の数値で成果目標を掲げておられますが、何か数値の根拠はあるのでしょうか。

**福島課長** 基本目標1の現状は、市民活動や地域の活動に取り組む人材が市民の間に育っていると考える市民の割合は17.6%と非常に低いです。最初は5%程度上がってほしいと考えたんですが、5年間で推進していく中でもう少し高い目標をというご意見をいただきましたので、少し高めの25%にしました。基本目標2, 3, 4につきましても最初は3%から5%程度と考えていたんですが、参画協働という面で推進していくというのが市の考え方ですので、少し高めに設定しました。数値的な根拠は特にありません。

**井上副会長** 目標を掲げると達成できているのかと厳しい評価もあると思うんですが、高めに設定されているということですね。5年後には、数値だけでなく目標に近づいているように、推進計画に基づいて各課や各事業で取り組んでいけたらと思います。

**福島課長** 5年後評価する時に、成果目標の項目をアンケート調査に入れて、対比できるようにいたします。

**今川会長** 次第にそって進めていきます。別紙1の第2次芦屋市市民参画・協働推進計画スケジュールについてご意見・ご質問がありましたらお願いします。無いようでしたら、別紙2の芦屋市市民参画協働推進計画についての総括についてご意見・ご質問があればお願いします。

**今川会長** 別紙2の4ページの最後で、「課題が多いことが分かる」というのは、どういう課題を意識されているのですか。

**福島課長** まずは、基本目標1のパブリックコメントを知っている市民が18.3%ということで、啓発やお知らせが足りなかったと考えています。それが主因で他のパーセントが低いところがありますので、課題が多いことがわかるとさせて頂きました。

今川会長 あしや市民活動センターを知っている人も少ないですね。

福島課長 そうですね。

今川会長 別紙3の第2次芦屋市市民参画・協働推進計画策定過程について他市との比較が出ていますがご質問はよろしいですか。関連して別紙4の素案の方で意見が出ると思っていますので、ご意見・ご質問をお願いします。

今川会長 「職員が自発的に市民活動・地域活動に取り組むことを促進します」(11ページ)とありますが、これはどういう意味でしょうか。職員で芦屋市内在中の人は30%ぐらいですよ。

福島課長 その程度であったと思いますが市の職員が芦屋市に住んでいる、住んでいないに関わらず、休みの日に市民活動、自治会活動や地域活動をしていただければ、芦屋市も他市も良くなると思っています。

今川会長 それは、自分が住んでいる地域でよいということですか。

福島課長 そうです。

今川会長 職員としては、各課における参画協働の推進を積極的にするとか、コーディネーター役を積極的に務めるとか、仕事に関連して積極性を出された方がいいと思います。

福島課長 協働を行っている課もたくさんありますし、おっしゃる通りその意味も含みます。

池内委員 3ページの1番上で、力を高めるとは、知識を高めるということなのか活動力を高めるのかがわかりません。

福島課長 「力を高める」を「意識を高める」に修正する方向で検討させていただきます。

池内委員 4ページの1行目で、「市民が地域や社会に主体的に働きかける」とあるが、市民自体が働きかけるというのはどうかと思う。市民が主体的に活動するという事ではないですか。

福島課長 市民が地域や社会に主体的に活動することによって、街がよくなる。その方向で考えさせていただきます。

池内委員 4ページの四角で囲った市民のところは、学習活動ばかりで、具体的な行動の場が

見えてこない。全員参加で底辺を引き上げていければいいと思います。

**池内委員** 4ページの(1)に、「情報を獲得し、発信することを支援します」とあるが、コンマの位置を変えたほうがいい。支援することは、獲得し発信することだと思うのでコンマの位置を変えるべきでは。

**福島課長** 修正します。

**池内委員** 5ページで、「多様な情報を多様な媒体で提供する」とあるが、あしや市民活動センターと市ホームページの2点しかないの、他にもあればいいのですが。

**福島課長** 今のところは、広報紙、市のホームページ、あしや市民活動センターのホームページ、行政情報コーナーということになります。

**池内委員** 市のホームページは、見る人は多いと思うんですが、あしや市民活動センターのホームページを見る人は少ない。情報を発信していても一般の方が目を通しにくいです。情報の流し方を工夫して、市の広報掲示板や自治会の掲示板を利用するのもいいと思います。

**米原部長** お伺いしたいのですが、広報掲示板はよく目につきますか。

**池内委員** 難しいですね。市の掲示板より自治会の掲示板の方が目につきやすい。媒体として多くの人の目に触れるように考えないといけない。

**今川会長** 5ページ目の(2)学ぶ機会を豊かにで「専門的な知識・技能を有する市民の発掘」とあるんですが、どういう形の発掘ですか。自己申告も含めて、何かの登録制にするのか、何かの講座を受けた人を対象にするのか、一定の登録をして把握しないと講師としての起用はできないですよ。

**福島課長** あしや市民活動センターのホームページに、専門的な知識・技能をもっているとPRすることもできますし、年に1回マッチングをやっていまして、技能ボランティアの方にお集まりいただいて、発表後に個別相談をして引き合わせをしています。

**今川会長** 芦屋市だと推測ですが、多様な技能や能力を持っている人が多いそうですね。そういう方たちをどう引き出していくのかですね。

**池内委員** 他市でも専門的な方がいらっしゃるの確かですが。

- 堀委員** 4ページの(1)情報を手に入れやすくというところで、カンフル剤がないかといつも言っております。例えば、自治会では、自治会に入っている人に全戸回覧をして、自治会の掲示板にも貼ります。それでも情報の発信に、満足してもらえないというのが実状です。ここに市民による地域マップ等の作成への支援とありますが、具体的にどういうことですか。
- 福島課長** 例えば、自分達が住んでいるところにこんな文化的なものがあるとか、こういう人材がいるなど、自分達で地域の情報を集めてマップを作ることを支援する取組みです。
- 今川会長** 地域資源マップというものです。地域防災マップとかありますよね。改めて書いてあるのは、どういうことですか。
- 福島課長** 防災に限らずということです。情報を自分たちで獲得するという積極的な姿勢にするというのが狙いです。
- 菅沼委員** 他市の事例でもありましたように、情報を一元化することが重要だと思います。、芦屋市にも拠点みたいものが需要ですね。そうすれば、拡散せずに市民の方々も情報を得やすくなると思います。
- 福島課長** あしや市民活動センターは、市民活動に関する情報の一元化を目指して設置してまいりまして、国、県、民間の市民活動の情報や参画協働の情報は、情報コーナーに置いて、ホームページでも取りまとめています。芦屋市内で届いている情報はまとめているのですが、菅沼委員がおっしゃるとおり、もっと届いていない部分へのネットワーク化が必要だと思います。
- 菅沼委員** 私は5年以上にわたってセンターの運営委員としてネットワークづくりに務めて参りましたが、先ほども出ていましたが、あしや市民活動センターを知らないという方が大変多かったです。
- 福島課長** あしや市民活動センターを知ってもらうための取り組みが必要だと思っています。
- 菅沼委員** 市の中央に位置する現在の所に移転してからは、大分わかりやすくなりましたので市の情報も提供する場になればいいと思います。
- 福島課長** もっと知っていただいてご活用してもらえようようにしたいと思います。
- 今川会長** 広報紙であしや市民活動センターのことを発信していますか。

- 福島課長** 移転した平成25年4月には、特集号でお知らせしています。また、定期的に発信できるように工夫をしていきます。
- 米原部長** 月に1回相談を受け付けてますというお知らせは広報紙に載せていますが、部屋も使えるとまでは、わかりにくいのかもかもしれませんね。
- 堀委員** それとアクセスですね。駐車場がないので、阪急より北に住んでいる市民は行きづらい。
- 米原部長** バス停が近くにあるんですけどね。
- 堀委員** バスの便が少ない。
- 瀬尾委員** 旧三条小学校区のようにバスが走れない道もありますよね。駅までは来れるけど、家に帰るのが大変というかたもいらっしゃいます。
- 米原部長** 立地はいいと思うんですけどね。
- 菅沼委員** あしや市民活動センターには、市民活動の情報しかないと考えている人が多いと思います。ただ、市民活動の情報といえども多岐にわたりますので、芦屋市民のためになる、分かりやすい情報発信を心掛けてほしいと思います。
- 米原部長** 記事を載せる時に、何か工夫が必要だと思います。
- 堀委員** 5ページの(2)学ぶ機会をゆたかにの、「専門的な知識・技能を有する市民の発掘」ですが、自治会において、リタイヤした時の前職や地位などを聞くのはタブーになっています。
- 今川会長** 例えば、経理や会計の技能を持った人、日本語以外の言語が堪能だという人等がどこかで登録できたらいいと思いますが。
- 瀬尾委員** それに関連するんですが、私の所属しているボランティアグループでも現役時代のことにはひけらかさないという原則がありますが、専門的な知識が必要なときには、いろいろと知恵を貸していただいています。ひけらかすのではなく、活用するのはとてもいいことだと思います。(2)の学ぶ機会をゆたかにというところで、発掘するだけ、学ぶだけでは駄目だと思います。こういう情報を一括管理して、コーディネートする所があって活用してこそ意味があります。活用する時にリーダー的、専



門家的に力を発揮してくださるなら、リタイヤした後、埋もれてしまわずに、自分の身をおいたところで輝けると思います。先ほどから出てきたコーディネーター役は、非常に市民活動する時に重要なポイントだと思います。

**焦委員** 5ページの(3)未来のまちづくり人<sup>びと</sup>を育てるのところです。例えば多くの地域では、今の若い人たちは、大学を卒業した後に地元に戻らないという問題がありますが、芦屋市はどうなのでしょう。

**米原部長** 産業の街ではないので、芦屋に住んで大阪や神戸に通勤してるかたが多いと思います。若い人にとって、住むところがない、働く場がないとかではなく、戻って来る時は住むところの経費が高いので、ハードルが高いと思います。感覚的に退職されたかたが、戻ってくるというのが多いと思います。

**今川会長** 芦屋市は、住み続けたいという比率が高いですよ。

**米原部長** 7割近くだったと思います。退職して戻ってきて、市民活動をしようかということは耳にします。

**焦委員** 退職されたかたは、元々芦屋市に家を持っておられて、住まいのコストがいらないうすよね。若い人は、周辺に比べると生活のコストの事を考えると選びにくいですね。

**今川会長** 他にお気づきの点はありますか。他の委員の方でご意見がありましたらお願いします。

**中野委員** 「住民」を「市民」に変更したのは、なぜですか。

**福島課長** 「市民」とは条例に基づく定義なんです。市内に在住、在勤及び在学する個人並びに市内で活動する法人その他の団体をいいます。一度住民にしたんですが、市民に戻しました。

**池内委員** 市と行政も両方出てくるんですが、使い分けをしているんですか。

**福島課長** これは行政(市)等に統一すべきですね。ありがとうございます。

**池内委員** 市といえば市民も含まれている気がします。行政の方が正しいと思います。

**福島課長** 使い分けて検討していきます。

- 今川会長** 行政(市)の方がいいかもしれませんね。
- 菅沼委員** 骨子案についてのワークショップの出席者が43名ということですが、芦屋市の人口9万余から検討しますと、いささか少人数ではないでしょうか。限定された出席者による意見の反映になるのではと不安に思います。前回の推進会議で今川会長もご提案されましたように、委員に開催のお知らせが無く、出席できなかったことは大変残念です。オブザーバーとしてでも委員が出席していれば、今日の会議は現場に沿ったさらに有益な意見が交わされたのではと思います。
- 池内委員** 基本目標3<すすむ>の項目のところで、人を集めてどうするかだけでなく、誰が課題を出して、誰が解決するのが重要です。市民意見を募集するとか、行政に市民が参加しやすい仕組みが必要です。市民の方から提案するというのも大事だし、パブリックコメントなどで、できるだけ多くの市民の意見を聞けたらいいと思います。意見を集めることで、新しいつながりもできてくると思います。
- 福島課長** それに関連すると思いますが、別紙4の素案の7ページの1番下に「地域ひろば」・「市民ひろば」の説明をしまして、芦屋市内全域で、自治会連合会の13のブロックにおいて、自治会のかたと自治会からの推薦のあったNPOのかたにお集まり頂き、会議を開きました。芦屋市からの課題は、平時の見守りと災害時要援護者支援について、市民からの課題は、居場所づくりを支援してほしいというものが1件でした。まずは、市民参画課の方で事前の説明会を行って、地域ひろばを実際に開催した後、出席されたかたが母体の団体に戻ってお話しをさせていただいて、市民参画課にFAXでとりまとめた意見を報告していただきました。最終的にとりまとめて、出席されたかたにどういう方向になったのかを遅くとも1月中旬に報告しよう考えています。これは、継続的に進めさせていただきます。
- 池内委員** 前日も聞かせていただきましたが、地域ひろばが今後活動の中心になってくると思います。
- 瀬尾委員** この地域ひろばと同じような会議を社協でもやっていませんか。
- 中野委員** まったく同じ内容でメンバーも変わらずにやっているのでも、やめてしまえという一部の意見もあります。
- 瀬尾委員** 潮見地域でも、毎回同じ内容なのでやめてしまえという意見が出ています。そこには、管理組合、自治会、民生委員、福祉推進委員、地域有志など、地域で活発に動いているかた達が集まっています。社協がある程度誘導しようとしたんですが、出

席者はどんどん厳しい意見を出していました。

**中野委員** 社協の知名度が、芦屋市では低いと思います。市民は、市が進行をしると言っています。市の職員も来ていましたが、前面に出てこないのが問題になっています。初めに市の職員を紹介して、市も社協もいっしょにやりましょうというムードが無かったのではないかと思います。

**瀬尾委員** その時によって、グループディスカッションをする時に市の職員がリードする時とそうでない時があります。保健センター、障害福祉、高齢福祉、保険から職員が来ていますが、前回の復習をやっていて次に繋がっていかない。

**中野委員** それも理由がありまして、その地区では、管理組合や自治会の役員が毎年交代するんです。ここまで話が進んで、次にこうしようという時に、全然知らない人が出てきて、なんのことかわからないという事態になってしまいます。

**瀬尾委員** 継続性がないので管理組合が出てこなくなっていました。

**中野委員** 発展性がないのが課題なんです、なんとか工夫して、せつかく人を集めているんだからと市の職員にはっぱをかけるんですが。

**瀬尾委員** するところはしっかり活動しているが、してない所を責めてはいけない。高齢者ばかりの管理組合もあります。後継者育成のために、若い人に役員になってもらうが、高齢者が若い人のパワーについていけないということもあります。私の住んでいる所は、根本的に管理組合を変えて、毎年役員を変えず、理事も3人で40代、50代の人がやるようにすると非常にうまくいきました。自治会がなくてどうにもならないことになってから、自らが自治会の必要性を自覚して自治会を作ろうということになれば、本物の自治会ができると思います。以前の形式を引きづっていたら、若い人も入りにくい部分もあると思います。

**米原部長** 地域ひろばの次のテーマはなんですか。

**福島課長** 地域ひろばについては、行政からの課題は毎年変わります。平時の見守りと災害時要援護者支援台帳は、ある一定の前向きな方向に進むことになりましたので、次は地域の人材育成や発掘などのテーマを検討しています。今回は、たまたま社会福祉協議会の課題と重なったので、同じような印象を持たれたと思います。また、管理組合の規約は、財産管理で、それとは別に自治会の規約を作って、自治会連合会に加盟しています。最近では、国土交通省からの指導で管理組合の規約の中に自治会活動をするということを入れるという指導があり、管理組合の規約と自治会の規約

を兼任できる形になっています。規約が昔のままであれば、総会で変更することもできます。

**瀬尾委員** 自治会がないから仕方なく自治会活動を管理組合がしていると言うのが実状です。例えば、共同募金もそうです。しかし、高齢化というのが大きな問題で、自治会活動まで手が回りません。社協でも、ゴミを出しに行けない人をその地域の人が助けるということもしていましたね。

**中野委員** 各種制度のはざ間にある、ゴミ出しに行けない人をその地域の人が助ける活動は、計画を立てて長年実践してきたんですが、市の環境処理センターでやりますということに突然なりました。地道にやっていたんですが、行政との連携がとれていないと感じました。

**瀬尾委員** 市は善意でいろんなことを考えてくれるなら、ひと言あればいいのですが。重なり合う部分があるなら情報交換していけば、もう少し広がっていくと思います。

**福島課長** もっと声を聞いて、連携していけば良くなるということですね。

**中野委員** 社協の強い所は、各地区に民生委員、福祉推進委員がいるので、すぐに集まれるという利点があります。それをうまく利用できればいい。無駄な会議を開いているのではないかと思ったこともあります。

**瀬尾委員** 出席率としたら、民生委員、福祉推進委員が自治会よりも多いですね。同じ芦屋浜でも住民のニーズが違うので、自分達が知らないことをお互いに知り合うということがのできるので、市民参画課も聞きにいかれたらいいのではないのでしょうか。また、違う面の市民参画の活動が行われているのをご覧になれると思います。

**米原部長** 小ブロック会議といわれるものですか。

**中野委員** そうです。小地域ブロック会議です。

**菅沼委員** さまざまな意見交換の場が必要であることは言うまでもありませんが、違う角度から考えることを検討する段階に来ていると思います。他市の事例も含めて、いろいろな情報提供が今後の参考になるかもしれません。

**今川会長** 協働推進リーダーが地域に出て行っても、地域の実状を把握していかないと上手くいかないだろうと感じました。

- 菅沼委員** 新しいことだけではなく、今まであったことを認識しながら、少しずつ良い方向に変化させていくことが大切だと思います。
- 瀬尾委員** 言いにくいことなのですが、行政が会議を開く時は、どこかのセクションのトップに声をかけますね。でも、実際に汗水たらしている人が実情を知っています。実際に活動している人の話を聞いた方が、内容が伴うのではないのかと思います。
- 米原部長** 一応、トップの方にお声をおかけしないといけないので、社協の方は役割分担されてるようですね。
- 堀委員** 自治会連合会では、春に行われる集会所トークに三役が分担して参加しています。ワークショップもそれぞれ分担して参加しました。最初に戻って、市民からの課題や意見は、たくさんあると思います。まちづくり懇談会や集会所トークでもたくさんの意見が出ます。ただ、日常的なことで、行政が一番動いてくれるのは、自治会を通じてだと聞いております。私は現認主義で、何か問題あれば、現場まで行って確認して写真も撮ってきます。
- 米原部長** 1つのことでもいろんなご意見がありますね。地元のかた達で意見をまとめていただかないと行政も動けない。地域の中で話し合って解決したり、現場に行っていただけののは行政としても動きやすくなります。
- 今川会長** 全く話が変わりますが、あしや市民活動センターで、円卓会議やラウンドテーブルはしていないのですか。
- 福島課長** 以前は、定期的に開いていましたが、地域ひろばを開いているので、円卓会議はお休みしております。
- 今川会長** 他にご意見、ご質問があればお願いします。
- 今川会長** 集会所トークや社協などいろいろありますが、全体的な概念図はないんですか。市民の声ということで、どういう所で反映されるという概念図があれば、地域ひろばがあったり、市民ひろばがあったり、社協の活動など、わかりやすいと思います。
- 福島課長** もちろん概念図があればわかりやすいかもしれません。将来的にまちづくり懇談会と地域ひろばが1つの形になったり変化するかもしれませんし、始めたばかりなので先はわからない状態です。
- 米原部長** 環境の関係の会議なら池内委員も出席していただいていますし、地区計画のことなら

まちづくり協議会がそれぞれあって、拾い出すことは可能ですがそれぞれテーマがあるので難しいと思います。

**今川会長** 自治会の役員は、同じ人がいろんな会議に出ることもよくあるんですか。

**堀委員** そうですね。

**池内委員** ワークショップの所で、自治会の役員に仕事が集中してしまって、大変だとありました。できるだけ、多くの人に割り振っていくことが大事だと思います。市民同士でやっていくというのが、今回の目的の1つですね。環境処理センターの話だとそれぞれ何を目的に動いているかを掴めていないし、話し合いの場が必要だった。また、課題を公表して、市民が議論する機会をもっと作ることが大事だと思います。いかに一般の市民の意見を聞いて、還元していくかが大事だと思います。還元していく過程で、集まる場の機会を作って新しいネットワークに繋げる仕組み作りが必要だと思います。

**今川会長** 予定の時間が近づいていますが、何か指摘する点があればお願いします。今日出た意見を参考に修正などして頂ければいいかと思います。では、最後に今後の予定を事務局からお願いします。

**中畠課長補佐** 次回は、2月の下旬に開催を予定してまして、改めて日程調整をさせて頂きたいと思います。

**福島課長** ご意見がございましたらパブリックコメントにも是非ご参加いただけますでしょうか。よろしく願いいたします。

・次回の日程調整について

**今川会長** 本日は、これで終了させていただきます。ありがとうございました。

以上